

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	寺杣雅人	所 属	芸術文化学部日本文学科
学 位	修士（文学）（岡山大学）	職 位	教授
専門分野	日本近現代文学、日本語韻律論		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	日本文学史Ⅴ（近代）、日本文学講読Ⅴ、日本文学講義Ⅳ、日本語表現法（前期）、日本語表現法（後期）、近現代文学専門演習Ⅲ a、近現代文学専門演習Ⅲ b、卒業論文指導（構想・準備）、卒業論文指導（制作）、3年生卒論準備ゼミ（通年）、文芸創作入門Ⅱ（オムニバス、3回担当）、尾道学入門（オムニバス、1回担当）、文化財学（授業責任者）		
大学院	日本近代文学特講、日本近代文学演習、日本語音律特論、日本文学・言語文化総論（オムニバス、3回担当）、修士論文研究指導		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
<p>（1）〈学会発表〉「「謙作の追憶」と「暗夜行路」序詞—志賀直哉における本文の形成—」全国大学国語国文学会、2006年12月</p>			
<p>（2）〈著書〉『五音と七音のリズム』南窓社、2001年3月</p>			
<p>（3）〈論文〉「等時音律説試論」文学第46巻第2号、1978年2月</p>			
本年度を含む過去5年間の研究業績			

(1) 〈論文〉「等時音律説」の基底—日本詩歌の理解のために—、『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号、2013年3月30日、単著

(2) 〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の変容—初出本文から九巻本全集所収本文まで—、『尾道市立大学日本文学論叢』第8号、2012年12月31日（平成二十四年度三年ゼミ生（泉理沙、宇田香織、小平田亜弥、三浦友也、武藤孔一、森藤優花、山田やよい）との共著）

(3) 〈論文〉千光寺山の一首から—再び詩形について考える—、『尾道文学談話会会報』第3号、2012年12月20日、単著

(4) 〈論文〉「清兵衛と瓢箪」の舞台はどこか—本文からの—考察—、『尾道文学談話会会報』第3号、2012年12月20日、単著（既発表論文を追補改作）

(5) 〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の最終稿—『映山紅』所収「城の崎にて」の本文と注解—、『尾道大学芸術文化学部紀要』第11号、2012年3月30日、単著

(6) 〈論文〉志賀直哉『映山紅』所収作品の本文—「真鶴」他四編の最終稿を求めて—、『尾道大学日本文学論叢』第7号、2011年12月31日（ゼミ生（安達智美・熊淵沙耶・新宅綾・南堀明希）との共著）

(7) 〈論文〉梅林の一句から—詩形について考える—、『尾道文学談話会会報』第2号、2011年12月20日、単著

(8) 〈論文〉「暗夜行路草稿4」の影印と翻字、『尾道文学談話会会報』第2号、2011年12月20日（ゼミ生（大出奈奈、貝原和紗、佐々木名穂、立町智恵、宮本奈菜、渡邊春来）との共著）

(9) 〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の形成—「城の崎にて」から「城の崎にて」へ—（『尾道大学芸術文化学部紀要』第10号、尾道大学芸術文化学部、2011年3月25日、単著

(10) 〈論文〉志賀直哉の宿—藤屋旅館か鶴水館か—、『尾道文学談話会会報』創刊号、2010年12月20日、単著

(11) 〈学会発表〉「志賀直哉「城の崎にて」の形成—「城の崎にて」から「城の崎にて」へ—」、平成22年度全国大学国語国文学会、於宮城学院女子大学、2010年11月28日、単独

(12) 〈論文〉志賀直哉「暗夜行路」の虚実—大乘寺の「雙鷺圖」をめぐる—、『尾道大学芸術文化学部紀要』第9号、尾道大学芸術文化学部、2010年3月25日、単著

(13) 〈その他〉「高橋新太郎文庫の現在」、『尾道大学日本文学論叢』第5号、2009年12月、単著

(14) 〈論文〉「宮沢賢治「どんぐりと山猫」考—論理的分析の試み—」、『尾道大学芸術文化学部紀要』第8号、2009年3月、単著

現在の研究テーマ（3つまで）

(1) 志賀直哉研究

(2) 日本詩歌の詩形の研究・日本詩歌の韻律の研究

(3) 宮沢賢治研究

研究テーマの
進捗状況

(3)以外は順調に推移している。(1) (2)の成果は順次公表している。今後も上記研究を継続していく予定。

学会、所属団体における活動

所属学会・所属団体 役職等

尾道市立大学日本文学会（会長） 全国大学国語国文学会 計量国語学会

Ⅲ 社会活動

委員会及び協議会委員

(1) 尾道市関係

尾道市立図書館協議会委員（議長）

尾道市立中央図書館感想文審査員

(2) 尾道市以外

公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会会長館館長